The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	本研究会の活動（2012年4月～2012年9月）
Author(s)	
Citation	詞林. 2012, 52, p. 62-62
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/67649
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

内秘密の術なと釈せる説あり。大なるあやまり也。なに事と条目をいふ程ならは、はや人にもいひきかせたるになりぬ。さるにとりては、物かたりにもしかくのいはれをかくへきか。かきあらはさぬにてしりぬ、えもいはぬ事なるへし。慈鎮和尚歌、

おもふ事なと問ふ人のなかるらんあふけは空に月そさやけき

とよみ給へるも、此物かたりの歌をおもへるにや。

※後人詠をゴシック、詠者を二重傍線、物語の詞を採ったという指摘部分を傍線で示した。

［付記］本稿は科学研究費補助金（特別研究員奨励費・課題番号：24·1276）を受けた成果の一部である。

（まつもと・おおき　本学大学院博士後期課程
・日本学術振興会特別研究員）

本研究会の活動（2012年4月～2012年9月）

第238回4月28日（土）

『源氏物語』正編における季節表現の構想的利用　瓦井　裕子

『続千載和歌集』「誹諧歌」を読む
―二条家撰者の勅撰集編集術―　村山　識

第239回5月19日（土）

『枕草子』の「をかし」「めでたし」「笑ひ」について
―日記的章段を中心に―　楊　也

源氏物語の享受の一考察
―謡曲「須磨源氏」の源氏の呼称を中心として―　越野　優子

第240回6月30日（土）

『河海抄』巻九における諸本異同とその特徴　松本　大

真名本『曽我物語』における曽我兄弟の母
―出家と女人往生の様相―　ルーンピロム・カナパット

第241回8月25日（土）

『枕草子』自賛譚の一考察　金　起台

サイデンステッカー訳『蜻蛉日記』をめぐって
―新出資料『蜻蛉日記新釈』の紹介―　丹下　暖子